



# The Royal Photographic Society

Patron: Her Majesty The Queen. Incorporated by Royal Charter

NEWS LETTER

第17号 2009/12/05

発行所 英 国王立写真協会・日本支部  
〒 107-0051  
東京都港区元赤坂 1-7-10  
元赤坂ビル 9F  
Tel 03-5413-7829  
Fax 03-5413-7410  
E-mail : yoshi-rpsj@hotmail.co.jp  
発行人 豊田芳州 編集人 川村賢一

<http://www.rps-japan.org>

## 第1回

### リレートーク研修会開催

10月15日(木) 東京の代官山「花壇」にて、第1回リレートーク研修会として、豊田芳州および本村政治両会員による大変興味深いトークの会が開催され、盛況の内に終了した。

今回は、中華レストランの一室を会場として行われたが、15名の参加者でほぼ満席となった。会の運営方法などについては、未だ手探りで反省点多かったが、支部にとっては新たな一歩となった。

豊田会員(理事長)の「時間を撮る」は、モチーフを分類しまとめるなど、なかなかアカデミックなトークだった。

ひとつの方向性を示す示唆的な提言で、写真の見方、撮り方に対する1つの視点として奥深い。

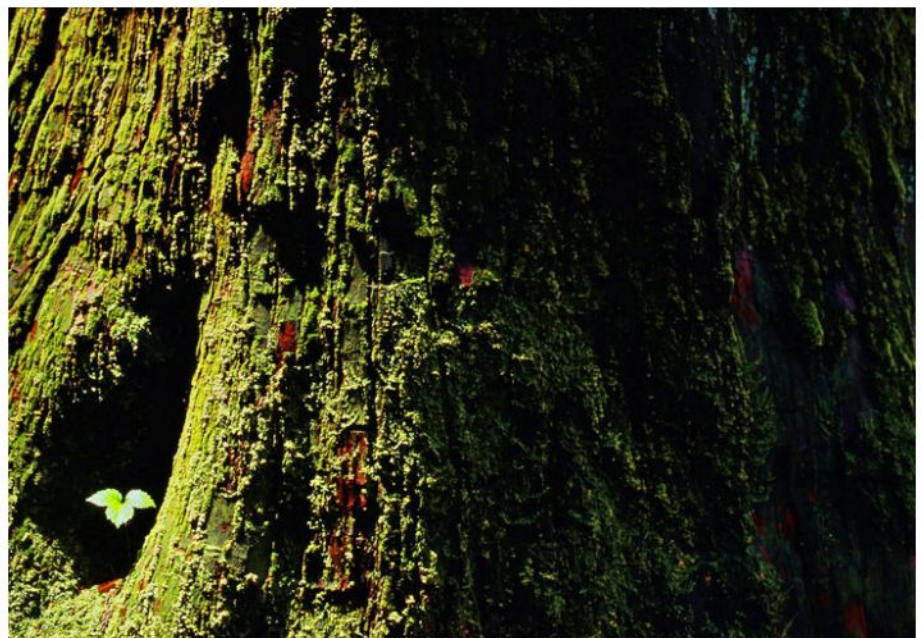
また、この中でとくに「未来を撮る」という視点が、次回写真展のテーマ「New Horizons」とも関係が深いので、今回とくにこの点を中心にあらためて原稿をお願いした。

本村会員からは、「Xを追う」というテーマで、早稲田大学野球部の斎藤佑樹投手を追うマスコミの群れを捉えたものだ。

大変貴重で他では目にすることのできない写真とトークが披露されたので、その一端を紹介したい。

#### 写真A:

大樹と幼木のコントラストを撮影した。大樹に注目すれば長い過去を物語ることができる。幼木に着目すれば長い未来を想像することができる



写真A

## 未来を撮る…「新たな展望」とは 「時間」は大きなモチーフ



豊田芳州

私は、撮影のモチーフの一つに「時間を撮る」ということを提唱しています。たくさんの優れた写真作品を分析すると、時間がかかっていることがわかるからです。

たとえば、苔むした岩石の写真は、長い歳月の経過を物語ります。私たちは、鑑賞するとき遠い過去を感じていくはずですが、海岸の岩肌には、波により浸食された痕跡が刻まれています。そこからは、繰り返し打ち寄せる波と長い時の流れを感じるでしょう。どち

らも「質感描写」(私が提唱するモチーフの一つ)というモチーフが基礎にはなっているはずですが、時間が私たちの感覚を刺激していることはまちがいないと思います。二つの例は「過去」をモチーフにしていると言ってよいでしょう。

受験シーズンになると、天神様の境内は絵馬であふれます。いうまでもなく、これは合格祈願の表れです。絵馬は、未来の希望と期待を表しています。だれもがもっている人情です。絵馬の写真は未来をモチーフにしていると言えます。

春になるとたくさんの植物が芽を出します。私たちは新芽を見ると、今年の活動と繁栄を想像することができます。これは、毎年繰り返す植物の生活

形から想像できます。ときには一生という長い未来を予感するときもあります。未来は、鑑賞者が過去の経験から感じるものです。一方、新芽には胎動を表す形と雰囲気があります。胎動とは、内部で新しい物事が動き出すことです。すなわち「未来」の予感です。新芽の形は、私たちの本能を刺激するのかもしれませんが。

このように、過去も未来も「時間」として写真の表現内容を構成する要素(モチーフ)になっていると考えられます。すなわち「時間」を意識した撮影の着想は価値があると考えられます。

同時に、撮影テクニックも時間を意識することで変わってきます。たとえば、歩行者の前方には未来があり後方には過去があります。未来と過去の比率は、前方と後方の比率で調節できます。フレーミングによって、この比率を変えることで、未来や過去を表現することができると考えられます。

## 展望は未来への思考

さて、英国王立写真協会日本支部の第8回写真展テーマは「The New Horizon 新たな展望」です。ここでは「新たな展望」に着目したいと思います。

展望とは、広く遠くを見渡すこと、その眺め、社会の動向や物事の予測、見通し、を意味する言葉です。どちらも未来を暗示しています。

は、私たちが直感的に感じる horizon(水平線、地平線)の意味ですが、ただそれだけではありません。地平線を眺めてこれからの方針や計画を練ることまで含まれます。今でこそ、展望台から眺める水平線や地平線は観光の対象になっていますが、昔は、眺めた後どちらへ向かうかを判断する基準だったのです。すなわち、未来を決める場所が「展望台」でした。

その意味が敷衍されての意味になったと解釈できます。私たちは「The New Horizon 新たな展望」をこなすとき未来を撮るという気持ちが大切でしょう。

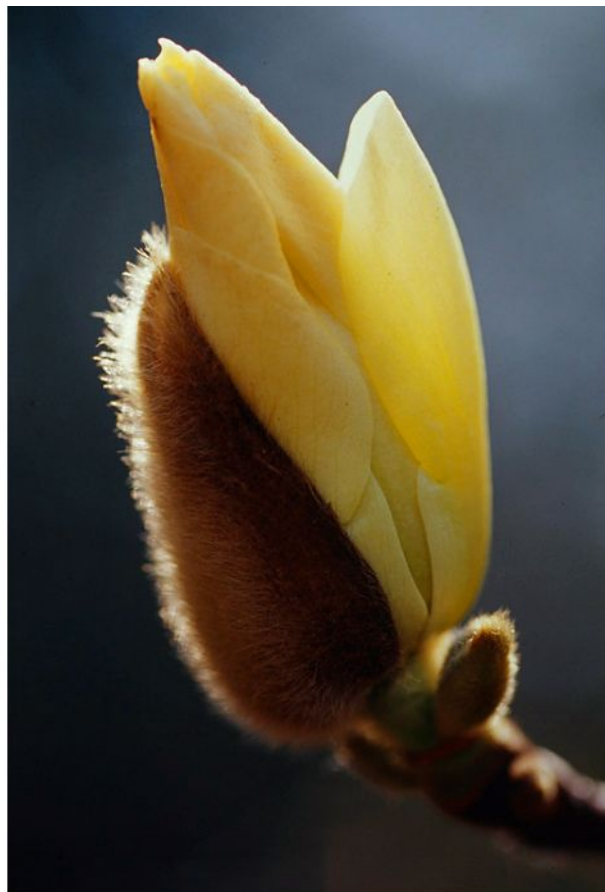
私たちの行動や思考は未来を予測して行われます。希望や期待、夢、計画・企画、出発、成長、予感・想像、楽観・悲観、不安・心配などは未来のことです。さらに転居、結婚、受験、就職、起業・開店なども未来への期待を込めた行動です。

私たちは、「The New Horizon 新たな展望」をポジティブにとらえたいと思います。しかし、私はネガティブもありえると考えます。会員それぞれの考え方がいろいろでしょうか。未来に対する皆さまの見解、予測などを作品に込めていただけたらと思います。

参加者からは、「みえないものを撮る」という言葉は重みがあった。押せば写る現在、そこにその人の心、気持ちがどこまで入魂されているか……。シャッターを押すという行為のうらの大切さを再認識させられた。モチーフを分類し、まとめたこと、豊田氏の姿勢がうかがえる。「いつもの自分の視線から、一步引いたところで、自らを見ることが出来て、新鮮な感覚を頂きました。ニュートラルな感覚を感じ、これを併せもつことは、世界が広がることを、予感させてくれました。」などの感想が寄せられている。

写真B :

植物の芽には原始的な形が表れる。これは、私たちに未来の成長や進化を予感させる働きがある。また過去の経験から将来の満開や落花も想像できる



写真B



写真C

写真C :

鈴なりの絵馬に、未来を期待する人情が読み取れる。画面内で絵馬が占める分量で期待の大きさを表現できる

## 「Xを追う」

(写真/キャプション: 本村政治)

リレートーク第2部は、本村会員から、早稲田大学野球部のキャンプを中心に、国民的注目の的となった斎藤佑樹投手を追う加熱したマスコミの様子や、ブラジル移民100周年記念早慶戦などが紹介された。

本村会員は、早稲田大学野球部OBで、聞くところによると、あの名手広岡の後を継いだ二塁手だったそう。現在、早慶戦を中心とした大学野球100年史の編纂を担っている。そうした立場から、関係者でなくては撮れない貴重な写真やトークで、大いに盛り上がった。

18歳の若者が多くのマスコミやパパラッチに追いかけて回されるのも大変だが、その他の多くのチームメイトや監督などの心労、複雑な想いは想像するにあまりある。

また、沖縄のキャンプ地で特別に指導するかつての名手広岡のコーチングの写真は、古武道や気功の達人のような身のこなしで、別な意味で感動させられた。

参加者からは、「斎藤という話題の人の裏側現場が良く伝わった。そこにいないと、撮れない写真だ。」「広岡コーチの心技体の一致した姿に特に感動した。」などの感想が寄せられている。

## 新会員紹介

渡部 誠(ワタベ マコト)

写真歴:

小学校で親に買ってもらった「富士ペット」が事始め。中学、高校では写真部で写真に熱中。大学生になってからは母校の中高・女子部のコーチとして活動。社会人になって中断し、定年近くになって趣味の写真を復活。

活動内容/受賞歴:

全国へ仕事で出張することが多く、その際に時間を見つけて初めてのデジタル一眼でソロソロと撮影しています。受賞歴は、小学生の時に富士ペットで流し撮りした滑り台の写真が朝日新聞のコンテストに入賞。

職業: 会社員(保険会社)

興味のあるテーマ/分野:

「鉄道廃線跡」「産業遺構」今の繁栄を支えて用済みとなって人々から忘れ去られようとしているこれらのものが、何かを語りかけてくれているような気がしています。その語りを写真で記録に留められればと思います。

特技/専門分野/所属団体など:

スキー、アマチュア無線、軍用無線機、4輪駆動車、オートキャンプ

前年の夏、夏の甲子園で全国制覇を達成した早実の投手X「斎藤佑樹」を追うマスコミを追った



若干18歳の少年は、マスコミの加熱によってカメラの行列で映像化され、無数の視線を浴び、個人の行動が著しく制限されることになる



その青年は大学の練習初日、報道規制をされたとはいえ、たった独り多数のカメラマンに囲まれ、緊張の表情を見せる



温暖地での練習に、遠くから駆けつけたマスコミによって、カメラの視線を浴びる



(財)国際文化カレッジ主催  
「第十三回 総合写真展」入選2点

高木祥光

昨年に続き「岳麓の春」が入選しました。二度目です。  
10月16日から30日まで、上野の東京都美術館（上野公園）で展示されました。

この作品は、平成20年の中旬に、富士五湖の中のひとつ、河口湖の北岸で撮影したものです。折良く好天に恵まれ、桜もほぼ満開でしたので、あまり苦勞せずに撮れました。

ただ、私がカメラを構えていたら、大勢のカメラを持った人々が集まってきたため、舟がよい位置に来るのを待つて撮影し、急いで現場を離れたのを憶えています。

使用したカメラは「ニコンのD70」、レンズは「ズームニッコール35-70 F2.8」です。



「岳麓の春」 高木祥光

田中宏明

御殿場から車で乙女峠に、さしかかったとき富士山のほうを見ると真っ白い雲が少し峰のあたりに感じた、そしてあるはずの月は雲のなか、あとは雲海に、かすむ御殿場の夜景を頼りにカメラをセットして撮影する。

今度はレンズを200ミリにかえて撮影したら、いつもの夜の富士山である、グリーン色の富士山であった。

(月、夜景、雲、を考えながらシャッターをおしたら金色の富士山が撮れました、肉眼では何も見えない、闇夜であり、アングルを感でうまく入れられるのは毎日同じところに立って撮影したからでしょう。)



「歳」 田中宏明

「築地」親睦撮影会開催

11月19日(木)築地にて、親睦撮影会を開催した。あいにく寒波と雨という悪条件で、参加者は少なかったが、東京での観光集客No.1という築地限界での撮影を楽しんだ。

築地市場の撮影は、またの機会として、外部市場のにぎわいや、近代建築の傑作である築地本願寺、地元の信仰を集める波除け神社などの撮影を堪能した。

作品の一部は、ブログにて速報として紹介しているので、ぜひアクセスして下さい。



第1回リレートーク研修会

「フレッシュRPSJ」ブログ開設

数ヶ月前より、会員向けのブログを開設している。  
支部HPの[関連リンク集]・[3. 会員のホームページ]・[フレッシュRPSJ]と、たどって開いて下さい。

現時点では、豊田会員(理事長)が個人的に管理していますので、何か情報があれば、お送り下さい。

HPと違い、タイムリーな情報発信や、気軽な意見、情報交換、質疑応答などの場として、ぜひ活用していきたい。

(編集後記)

今回は、第1回リレートークの報告をメインに、編集しました。紙面に載せきれなかった部分については、支部HPリンクのブログで紹介します。

次回12月17日(木)のリレートーク研修会は、不肖私がバトンを受け、「写真とパースペクティブ」というテーマで、お話しすることになっております。

私の後は、来年3月頃の予定です。皆さんそれぞれの得意分野の話をお持ちだと思います。ぜひバトンを引き継いで、ご披露ください。研修会と銘打ってはいますが、できるだけ気軽な懇親会としたいと思っておりますので、ご協力お願い致します。また、何かこちらで協力できることがあれば、お気軽にお申し出下さい。

(川村)